人生ハンド仏句

第１３４号

Ｈ．２５．５．１

（毎月１日発行）

今ある自分に感謝

住職　谷川寛俊

日蓮聖人のお書きになられた「開目抄（かいもくしょう）」という御書は三大部と呼ばれて、一番重要な書物だといわれています。

その中に「法華経こそがお釈迦様の教えの中で第一番の経典であり、更には如来寿量品（にょらいじゅりょうほん）を中心として大変重要なものであることを説いています。

このようにご指摘になられて日蓮聖人は次の有名なお言葉を示されました。

「善につけ悪につけ法華経を捨つるは地獄の業なるべし。本願を立つ……我れ日本の柱とならん、我れ日本の眼目とならん、我れ日本の大船とならん。等と誓いし願、破るべからず。」というのであります。

善につけ悪につけというのは、たとえ立派なことをしたとしても、又悪行をしたとしても、法華経への信仰を捨てるということが、あるならば、それらは地獄へ落ちてしまうことは、決まっています。本願を立つというのは、私達は前世に於いて、お釈迦様にお願いをして、お釈迦様がそれを受け止めて下さったので、人間としての生命をいただいたものであり、この時お釈迦様の前で、前世で立てた願、それが本願を立つ、という言葉の意味であります。ここでは、省略していますが、法華経を捨てて念仏を唱えなければ、父母の首を刎（は）ねてしまうぞ、というような大難があらわれたとしても、もしも大智者がいて私（日蓮上人）の法華経への信仰が破られないならば、そんなものは風の吹く前にある塵（ちり）みたいなものだ、という言葉が続いています。そして、三大誓願である、日本の柱、眼目、大船となる。と続けられました。即ちお釈迦様に対して日蓮聖人も本と願を立てたということであります。

これを更に考えてみると、「我が頭（こうべ）は、父母の頭、我が足は父母の足、我が十指は父母の十指……」とは日蓮聖人のお言葉の一節ですが、私が今ここに生きているのは父母のお蔭であり、父母はまた祖父母のお蔭であり、更には人の生命というものは、無限に先祖につながっております。これは時間的なつながりですが、同じように私が今生きていけるのは、食べ物のお蔭や隣近所の人々のお蔭、さらには水や木や空気や山や川など全てのものが、あるお蔭であります。

ですから、私たちは決して一人だけでは生きてはいけません。

そこで仏教や日本の古来の伝統では、大きな石があるとその石の中に神の魂を見て、それをお祀（まつ）りしました。

つまりあらゆるもののお蔭を得て、共に生きているということに感謝しなければなりません。

「人生ハンド仏句」と打ち込んで頂けば、ホームページにつながります。

編集・発行
玉蓮山　真　成　寺
編　集　部　谷川久仁子
TEL・FAX　0765-22-2268

お知らせ

◎祠堂大法要

五月二十六日(日)

・午前十一時　ご法要
（各家先祖のご回向）

・午後一時　ご法話

朝日町泊妙輪寺住職
黒部市民病院副医院長
産婦人科部長
日高隆雄上人
演題
「医療現場から
週末医療を見る」

・午後二時　大法要
（今年永代供養加入者各霊位御回向）

尚、十二時より昼食の準備がして御座いますので、ご遠慮なくお召し上がり下さいませ。
給仕（お講）当番は**魚津二班の方々**です。
どうぞ宜敷くお願いいたします。

◎毎月一日祈祷会

・午前五時から

早朝のお参りは気持ちの良いものです。
ご祈祷を受けて、霊神符（お守り様）を頂きましょう！

○朝勤（ちょうごん）
毎朝5時励行にお参りです。
（5月～9月は毎朝5時）
どなたでもお気軽にお参りください。

◎水子供養会

・毎月十三日
・午後一時半より

◎唱題行脚

・毎月二十八日
・午後一時半より

先月は、午前中大雨、雷まで鳴る始末。行脚はどうなるのかしら？と心配されましたが、お蔭様でお昼からぱぁーと晴れ渡り、気持ちよく回って参りました。どなたでも参加は自由です。
ご一緒に回りましょう！
先月の参加者
谷川寛敬　髙木昶　伊藤宗治
土居可久子　高円富美子
谷川まり子　谷川久仁子

※　地鎮祭（じちんさい）・新車・新築・改築のお払いは、秘妙五段の特別祈祷で　いつでもお気楽にお申し込み下さい。